

令和元年度エゾシカ捕獲対策業務 実施状況

1. 個体数調整（右岸堤防地区）

平成 29-30 年度業務で実施した給餌試験や捕獲の結果から、今年度は大型囲いワナ候補地（図 1）のうち 2 地点で捕獲を実施している（平成 30 年度から 1 基増設）。

一つは昨年度も捕獲を実施し、定点センサスで個体数の減少が確認されたものの依然として観察数の多いサケマス捕獲場分岐（以下、サケマス分岐）、もう一つは昨年度の試験誘引で分岐に次いで多くのエゾシカが撮影され、社会的条件に合う（大型車両での生体搬出が可能であり堤防から 10m 以上離れている）土砂堆積場である。

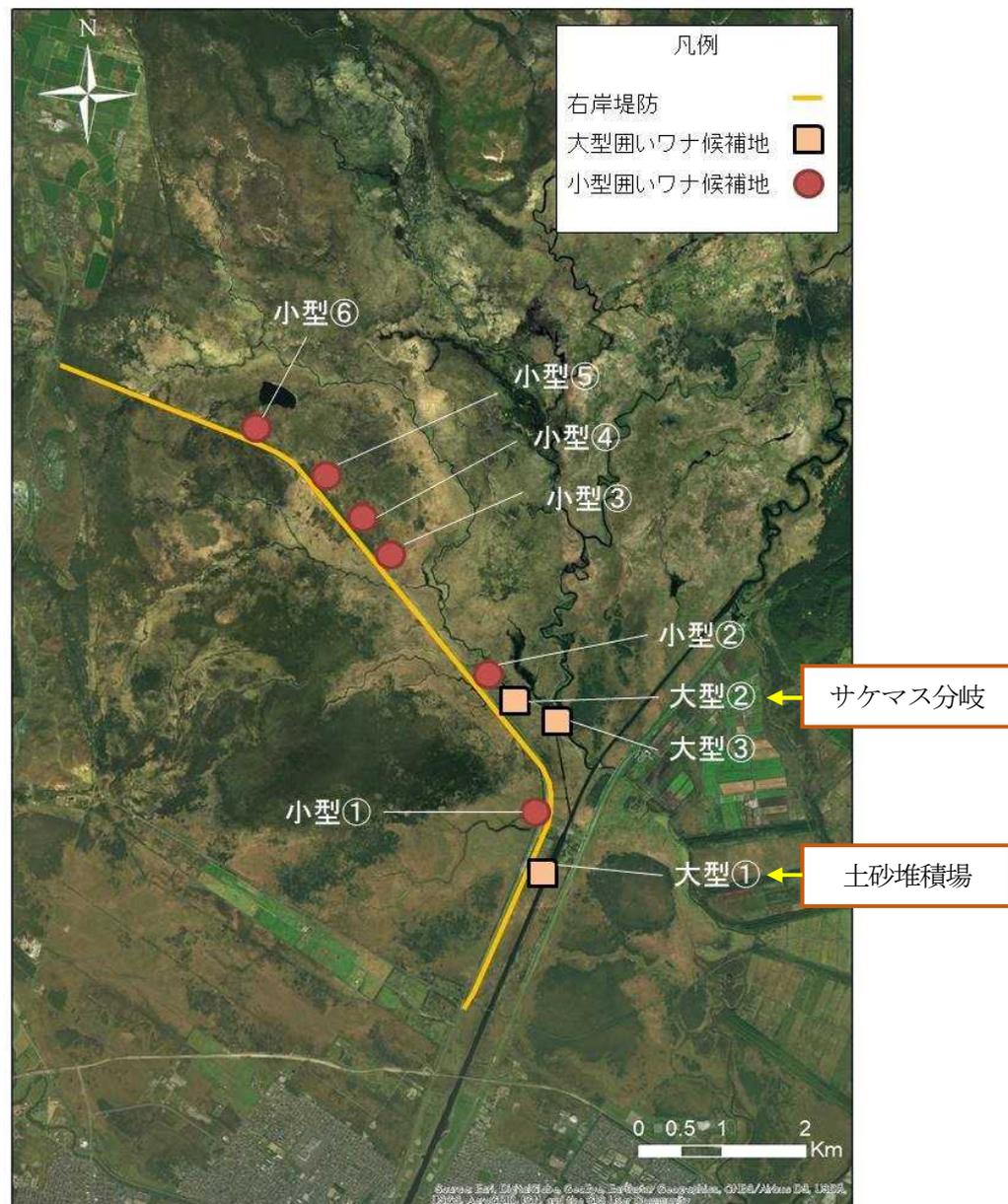


図 1. 右岸堤防地区における捕獲候補地

※事故防止のための安全対策

昨年度の釧路湿原エゾシカ対策検討会議にて、右岸堤防利用者への情報提供が必要との指摘を受けたため、今年度は以下のとおり、関係機関や公園利用者等に対して十分な事前周知を行った。

対象	周知方法・内容
公園利用者（一般人）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 右岸堤防の南北ゲート、捕獲現場に看板を設置 ・ 温根内ビジターセンターへの情報提供 ・ パークボランティア及び鳥獣保護管理員への書面・メールでの情報共有
十勝釧路管内 さけ・ます増殖事業協会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 誘引餌の設置場所と期間、除雪作業の詳細、サケマス孵化事業に影響がないこと及びサケマス密猟者対策に関する情報提供
釧路河川事務所 （土地管理者）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 右岸堤防への立入と自動車利用、誘引餌の設置場所と期間、除雪作業の詳細、大型囲いワナの設置期間と捕獲方法を通じて右岸堤防へ影響がないことの情報提供
釧路市	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大型囲いワナの捕獲と個体群動態を含む情報交換
釧路町	
標茶町	
鶴居村	



設置した看板

2 地点における捕獲実施スケジュールを表 1-1 に示す。捕獲は現時点までにサケマス分岐で 5 回、土砂堆積場で 3 回実施している。捕獲結果を表 1-2、表 1-3 に示す。

表 1-1. 捕獲実施スケジュール

	サケマス分岐	土砂堆積場
11 月 21 日	給餌開始	
12 月 4 日- 6 日	ワナ設置	
12 月 25 日	ワナ稼動、16 頭捕獲	
1 月 14 日	ワナ稼動、8 頭捕獲	
1 月 16 日- 18 日		ワナ設置
1 月 29 日	ワナ稼動、6 頭捕獲	
2 月 6 日		ワナ稼動
2 月 7 日		ワナ稼動
2 月 10 日	ワナ稼動、6 頭捕獲	
2 月 12 日		ワナ 2 回稼動、16 頭(朝 9、夕 7)捕獲
2 月 13 日	ワナ稼動	
2 月 23 日	ワナ稼動、3 頭捕獲	
3 月 2 日		ワナ稼動、4 頭捕獲

表 1-2 サケマス分岐における捕獲結果

日 付	捕獲 時間	捕獲 頭数	構成		
			オス成獣	メス成獣	子
12 月 25 日	14:30	16	2	10	4
1 月 14 日	15:00	8	3	4	1
1 月 29 日	9:00	6	2	3	1
2 月 10 日	9:30	6	5	0	1
3 月 2 日	17:50	4		2	2
合 計		40	12	19	9

表 1-3 土砂堆積場における捕獲結果

日 付	捕獲 時間	捕獲 頭数	構成		
			オス成獣	メス成獣	子
2 月 12 日	9:40	9	0	8	1
2 月 12 日	17:30	7	1	6	0
2 月 23 日	18:30	3		2	1
3 月 3 日	22:50	4		4	
合 計		23	1	20	2

※捕獲は、サケマス分岐 3 月上旬、土砂堆積場 3 月中旬まで継続する予定。

2. 個体数調整の効果検証等

(1) ロードセンサス（右岸堤防地区、コッタロ地区）

すでに実施地区として捕獲を実施している右岸堤防地区においては捕獲の効果検証、まだ捕獲を実施しておらず、エゾシカの生息状況を継続的に監視する必要があるコッタロ地区においてはエゾシカの生息状況把握を目的として、エゾシカの個体数モニタリングを実施している。既存データとの比較が可能になるよう、それぞれの地域の状況に合わせてロードセンサスを実施している。

表 2-1. 右岸堤防地区における結果

		総数
12月5日	朝	416
	昼	202
	夕	253
	夜	185
1月29日	朝	478
	昼	165
	夕	169
	夜	256

表 2-2. コッタロ地区における結果

		総数
12月6日	朝	58
	昼	4
	夕	36
	夜	2
1月22日	朝	18
	昼	10
	夕	54
	夜	13

右岸堤防、コッタロともに概ね例年並みの頭数であったが、1月の右岸堤防において478頭が観察されたのは過去最大であった。そのうち164頭は赤沼-温根内で観察された。

(2) 定点センサス（右岸堤防地区）

大型囲いわなの捕獲対象となるエゾシカの個体数を明確にするため、わな設置地点を中心とした半径500m、半径1kmの円内に収まるエゾシカの個体数をカウントする定点センサスを行った。

表 2-3. サケマス分岐における結果

日付	時間	大型囲いわなからの距離		計
		0~500m	501~1000m	
2019/11/29 誘引開始時	10:00	42	51	93
	15:00	35	70	105
2019/12/24 捕獲開始前	10:00	43	28	71
	15:00	79	24	101
2020/2/11 捕獲開始後	10:00	25	93	118
	15:00	34	54	98
捕獲終了後	10:00			
	15:00			

昨年度の捕獲前の定点センサスで、0-1000mの円内に約150頭が生息していることがわかっており、そこから約60頭捕獲したため約90頭が昨年度末に残っている計算であった。そこにエゾシカの一般的な自然増加率である1.2を掛けると今年度は108頭となるが、誘引開始時の105頭はそれに近い値であり、昨年度から実施している定点センサスで捕獲対象のエゾシカ個体数を概ね把握できていると考えられる。

また、誘引開始時と捕獲開始前における0-500mと501-1000mの比を見ると、誘引により500m以内の割合が大きくなっていることがわかる。一方で捕獲開始後は、0-500mのエゾシカは減少していたが、501-1000mのエゾシカはむしろ増加していた。

このことは、捕獲によって個体数が減少した後周辺からの移入が生じている可能性を示しており、現地での捕獲を継続することで湿原核心部のエゾシカを捕獲できる事の科学的裏付けとなる。

表 2-4. 土砂堆積場における結果

日付	時間	大型囲いワナからの距離		計
		0～500m	501～1000m	
2019/11/29 誘引開始時	10:00	20	43	63
	15:00	34	41	75
2019/12/24 捕獲開始前	10:00	20	43	63
	15:00	48	14	62
2020/2/11 捕獲開始後	10:00	7	33	40
	15:00	1	77	78
捕獲終了後	10:00			
	15:00			

本地点は今年度が初めての定点センサスであったが、0-1000mの頭数は約60頭で安定していた。捕獲開始後に0-500mの頭数が減少し、501-1000mの頭数が増加するのはサケマス分岐と同様であったが、本地点の501-1000mには水門1号川沿いを利用し、誘引餌を全く利用していない個体も含まれており、誘引による周囲からの移入なのか、河川沿いの利用価値の変化によるものなのかは不明である。

3. ここまでで見えている課題

- ・ 捕獲による局所的な個体数減少が確認されているが、今後周辺からの移入個体を誘引し捕獲し続けることが可能であるかについて、検証する必要がある。
- ・ 捕獲を継続する上で、捕獲目標や捕獲場所を変更する際の判断基準について議論する必要がある。
- ・ 大型車両での生体搬出が可能で堤体から10m以上離れているという社会的条件を満たす場所は限られており、捕獲候補地を増やし湿原全体のエゾシカを捕獲する戦略について検討する必要がある。

*今年度の検討中業務

■コッタロ地区における個体数調整に向けた検討

コッタロ地区は、これまでの調査結果より越冬するエゾシカ個体数の年変動が大きく、ロードセンサスによる観察総数が比較的少ない。また、一般利用者（例：カメラマン、釣り人）が多いこと等の社会的な課題がある。これらの課題を踏まえ、適切な捕獲手法、捕獲場所の選定及び搬出経路の確保などの具体的な検討を行っている。

■赤沼を利用するエゾシカの捕獲方法の検討

赤沼周辺は、生態系維持の観点で保全優先度が高いものの、社会条件や地形的な制約から実現可能な捕獲方法を見いだせておらず、緊急性の高い課題となっている。

今年度は、ワナ設置が可能なサケマス分岐の捕獲地点までのエゾシカの誘引を試み、エゾシカ搬出業者と協力した赤沼周辺での捕獲方法を検討している。